

学習成果とその可視化

中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」においては、教育の質の保証に関し「教学マネジメントの確立に当たっては、学生の学修成果に関する情報や大学全体の教育成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用することが求められる。」とされています。

本学においては、教育に関する基本方針を新たに策定するとともに、各学部の目的、DP及びCPを改定したところであり、今後の教育改革を展望し、第三期中期計画における教育の質向上に向けた教育課題への対応を検討するにあたり、学習成果とその可視化について専門家の意見を聞きながら考える機会とします。



【講師】

京都大学高等教育研究開発推進センター
高等教育教授システム研究開発部門

部門長 **松下 佳代 氏**

【日時】

令和元年5月17日（金）

14時40分～16時10分

【会場】

滝沢キャンパス：共通講義棟107講義室

宮古キャンパス：管理研究棟大会議室

（遠隔会議システムによる配信）

【備考】

同日16時20分～17時50分に本部棟大会議室にて教育の質向上に向けた教育課題検討部会研修会を開催。

松下 佳代（まつした かよ）氏

京都大学高等教育研究開発推進センター教授
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学
修認定退学。京都大学博士（教育学）。京都
大学教育学部助手、群馬大学教育学部助教授
等を経て、2004年より現職。現在、大学教育
学会副会長、日本カリキュラム学会代表理事、
日本学会議会員、中央教育審議会特別委員
会委員等を務める。主な編著書に、『〈新し
い能力〉は教育を変えるか』（ミネルヴァ書
房、2010）、『ディープ・アクティブラーニ
ング』（勁草書房、2015）、『アクティ
ブラーニングの評価』（東信堂、2016）、*Deep
Active Learning* (Springer, 2017)など。